



## 農薬の適正使用について

今月は JA グループの安全防除運動推進月間となっております。

安全・安心な農産物を生産するために、農薬の適正使用について確認してみましょう。

農薬の安全性は、定められた使用方法を守ることで確保されます。

### 農薬の使用法は必ずラベルで確認！

- ◎使用作物名の確認 作物名・病害虫など
- ◎使い方の確認 希釈倍率・使用量・使用時期・使用回数・使用方法など  
(注)使用時期の「前日」は、24 時間前のことです。
- ◎必要な薬量を準備し使い切るようにしましょう。



### 使用する作物に適用があるか確認！

名前が似ていても作物の大きさや収穫部位、収穫時期が異なる場合は、農薬の残留量が異なるため、農薬登録では別作物として扱い、農薬の使用法も異なる場合がありますため注意が必要です。

(例)「トマト」と「ミニトマト」、枝豆と大豆、「サヤインゲン」と「えんどう豆」などは名前が似ていても農薬の登録上では別作物扱いになります。

- ◎わからない場合は、JA に相談してください。



### 事故・被害を防ぐための注意点

- ◎住宅・公園周辺では周囲の方に十分配慮した対応をしましょう。
- ◎周囲に影響が少ない天候や時間帯を選択しましょう。
- ◎飛散の少ない剤型、飛散低減ノズルを使用しましょう。
- ◎カッパ、マスク、手袋などを着用し自身を守りましょう。
- ◎施錠して適切に保管、使用記録をつけましょう。
- ◎容器の移し替えは厳禁です。(誤飲・誤食の原因)





# まず確認、そして実行 安全のための基本を守りましょう

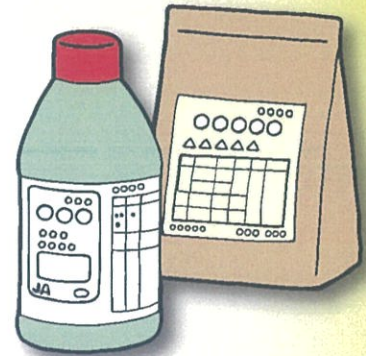
防除の基本は、病害虫・雑草が発生しにくい環境を整えること、病害虫の早期発見と適切な防除方法で行なうことです。農作物への被害をより少なくするために、病害虫の発生状況を確認しながら、適期に適切な防除を行いましょう。

## 農薬は使用方法を守り、適切に使う

防除手段はいくつかありますが、安定的な農作物生産のためには、農薬は必要な資材です。農薬は、病害虫・雑草への防除効果、農作物や環境に対して安全性が確保できるよう農薬ごとに使い方が決められています。

農薬のラベルには、使用するにあたって守らなければならない事項が書かれています。使用前に一度確認し、適正に使いましょう。

## 農薬のラベル内容の確認ポイント



農薬登録番号のある農薬を使います

農林水産省登録  
第○○○○○号

人畜や作物への安全性が確認されたものを農林水産省が登録しています

殺虫剤  
○○○○○○水和剤

成分：△△△△△…0%

適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
キャベツ	ハスモンヨトウ アオムシ オオタバコガ …	1000 ~ 2000倍 1000倍	収穫14日 前迄	3回以 上	
トマト	アブラムシ類 オオタバコガ …	2000倍	収穫前日迄	2回以 上	
…	…	…	…	…	…

適用内容の範囲で使用します

作物への効果、薬害や残留程度を確認し、使用方法が決められています

使用量・希釈倍数・使用時期、収穫前日数は必ず守ります

有効成分毎の総使用回数を超えないようにします

使用してよい作物を確認します

ラベルの適用作物欄に記載のない作物には使えません  
作物グループの場合は、含まれる作物を確認してください

△効果・薬害等の注意

△安全使用上の注意

効果的な使い方、薬害回避のための注意などを確認します

安全に使用するための注意事項を守ります

保護具の着用、水産動植物への影響、水田での7日間の止水管理、農薬の保管管理の徹底など注意すべきことを確認します

有効期限が切れたものは使用しないようにしましょう

## 防除作業後は、農薬使用内容を正確に記録

作物、圃場ごとに日誌を作成し、農薬使用の記録を正確に残しておきましょう。成分ごとの総使用回数、収穫前日数などは農薬散布前にチェックしましょう。



基本を守って、農作物の安全・生産者の安全・環境の安全を徹底します。





# 農薬の飛散・流出防止対策

農薬飛散のリスクは、周辺環境や作業方法などでも変わります。そのため、基本となる飛散防止対策と、周辺環境に配慮した対策をとりましょう。

## 飛散防止のための基本的な施用法

### 風のない時を選んで散布

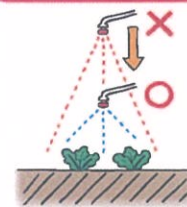
- 風のない日や風の弱い時刻を選んで散布する
- 散布中でも、風向きや風速は変化するので常に注意しながら行なう

### 飛散の少ない施用方法で

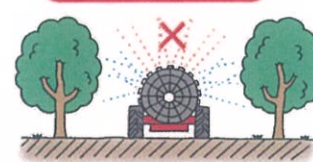
- 農薬は対象とする作物だけにかかるようにできるだけ作物の近くから散布する
- 圃場端部では内側に向かって散布する
- 高さのある作物などは、枝葉のない方向へ飛ばさないように注意する
- スピードスプレーヤーでは、樹型に合わせたノズルの配列や噴霧量を調節し、回転時や作物の無いところでは散布を止める
- 飛散しやすい場所は手散布などで行なう

### 水田での農薬施用後7日間は止水管理を徹底する

作物の近くから散布



不要な噴霧を止める



農薬散布後7日間は止水する



## 周辺環境に配慮した飛散防止対策

### 作物や栽培法が異なる圃場間には遮蔽物を設置する

- 圃場が隣接している場合は、防風などに使用するネットを設置する
- ソルゴーなど繁茂する遮蔽植物を植えたり、緩衝区を設ける

遮蔽物の設置



### 収穫間近の作物に配慮

- 収穫間近の作物がある場合は散布日を調整する
- 散布時に近接作物(収穫間近の場合)を遮蔽シートで覆う

ノズルによる飛散の程度



### より飛散しにくい散布方法へ切り換える

- 飛散の少ない剤型や施用方法を選択する
- 飛散低減ノズルなど、適正な器具を使う
- 周辺作物にも登録のある農薬を選ぶ

## 農薬の保管、防除器具の管理を確実に行う

- 散布器具は日頃から整備し、使用前にいま一度点検し、使用後は確実に洗浄する
- 農薬は専用の保管庫で管理する(毒劇物保管庫は施錠、表示が必要)
- 使用済みの空容器等は適正に処理する

しっかり洗浄する

